

2016年度第2回広島大学平和科学研究センター主催
国際シンポジウム

『移民・難民 —国際社会は人権の危機にいかに関わり向かうのか—』

本稿は、平成28年12月9日に開催した広島大学平和科学研究センター主催の国際シンポジウム「移民・難民 —国際社会は人権の危機にいかに関わり向かうのか—」の論文集である。シンポジウムでは、コロンビア大学人権学研究所 (ISHR) 平和構築・権利プログラム・ディレクターの David Phillips 氏に基調講演を、新潟県立大学の猪口孝学長、広島大学大学院総合科学研究科の材木和雄教授に講演を頂いた。その後、広島大学平和科学研究センターの西田恒夫センター長のモデレーターのもと、上記3名講演者によるパネルディスカッションが持たれた。シリア、ボスニアなど具体的ケースも踏まえた人道支援の問題点、事態改善のための方途等につき幅広く議論がなされたほか、自国の問題を放置したまま国を開けば、排外主義が蔓延る恐れがあることなどが指摘された。これに関し、移民・難民に関わる問題の解決のためには、各国が一つ一つ出来ることを行っていく必要があるとの意見が示された。

友次晋介

広島大学平和科学研究センター准教授

小倉亜紗美

広島大学平和科学研究センター助教